

## 感性を育む和学講座

### ～七夕のいろいろ・古事記～

七夕とは

七夕(たなばた・しちせき)は五節供の一つです。旧暦の七月七日は新暦では、今年(2023年)は8月22日となります。

そもそも節供とは、節日に神様にお供えをして、日々の穢れを祓い、行事や日々の生活の無事、農作物の豊穰を祈る慣習です。

七夕は古くは日本書紀に記載されています。



日本の「棚機津女」と中国から入ってきた「乞巧奠(きっこうでん)」、織姫伝説などが合わさっています。

6世紀に書かれた古代中国の書物「荊楚歳時記」(中国の南、長江中流地域の年中行事を記した月令の一種)によると、七月七日の夜女性たちが美しい糸を七本の針に通して、裁縫の上達を願ったとあり、これを「乞巧奠」と称します。要するに巧なることを願う儀礼です。

平安時代、宮中では梶の葉に墨で願い事を書いていました。



また、里芋の葉の朝露で墨を摺って願い事を書くと言います。

現代は彦星と織女星のお話が星姫伝説として若い人に広まっています。

天帝の娘で、神様のはた(布)を織っている織女は働き者の彦星と結婚します。夫婦になった二人は、仲睦まじく暮らすのですが、働かなくなります。とうとう天帝はお怒りになり、二人を引き離します。織女も毎日泣いてばかりなので、天帝は一年に一度七月七日だけ会うのを許されたという、有名なお話です。

悲恋物語のように語られる織姫伝説ですが、元を糺せば二人が仕事をしなくなったから引き離されました。



さて、「七夕」と書いて「タナバタ」と読むのはなぜでしょう。

タナバタとは「棚機」のことです。民俗学者の折口信夫氏は、この時期に水辺に張り出した棚の上で「機織り」する女性がいたと考えました。何を織っていたのか。後の大事な行事に神様に捧げる衣を織っていたのです。

現代の暦ではわかりにくいのですが、旧暦で考えると、7月7日の一週間後には「お盆」がやってきます。お盆は仏教なので、神様と関係ないのでは、と思われるかもしれませんが、神道にもお盆はあります。先祖供養、先祖崇拝となります。

祖霊が氏神になるとも云われているのです。

このように、日本の「七夕」は多くの言い伝え、民間風習などが合わさっており、複雑です。ただ言えることは、現代のような悲恋物語でもなければ、星姫伝説だけでもないのです。

お盆の前の大事な行事だということです。

## お中元とは

夏の贈り物といえば「お中元」です。

そもそも「中元」とはどのような意味があるのでしょうか。

中国の道教に由来する行事に「三元」があります。

三元とは、龍王の孫である三官大帝（龍王の3人の娘と人間との間に生まれた）の誕生日です。

三元	日付（旧暦）	日付（新暦）	神	神徳
上元	1月15日	2月上旬～3月上旬	賜福大帝・天官大帝	福を与える
中元	7月15日	8月上旬～9月上旬	赦罪大帝・地官大帝	罪を赦す
下元	10月15日	11月上旬～12月上旬	解厄大帝・水官大帝	厄を祓う

このうち、中元の7月15日は仏教では「お盆」に当たります。

お盆に先祖への供物、帰省するときの親への土産などが合わさり、「お中元」として贈り物を交わす風習が生まれたと考えられます。やがて、商戦にのせられ、半年に一度お世話になった方々へのご挨拶を兼ねてお中元は盛んになっていきます。

